

1 プログラム名 「やさしい頼み方」

2 指導のねらい

人はお互いに助け合いながら社会をつくり、人間関係を結んでいく。しかし、自分から頼む働きかけができなければ、助けてほしいことに気がついてもらえない。そのため、相手の気持ちを大事にしながら、自分のお願いしたいことをはっきりと伝えられるようになることが大切である。強い言い方ではなく、やさしい頼み方がいつでもできるようになることで、相手との人間関係を深めていけるスキルを児童に身に付けさせたい。

3 獲得目標とするスキル

- ①相手の気持ちを大事にしながら、自分も大事にして自分の願いを伝える頼み方をする。
- ②頼むときの理由や自分が何をしてほしいのかをはっきりと相手に伝える力を身に付ける。

4 展開

場面	教師の発問(○)・指示(●)	児童の反応・行動	留意点	時間
インストラクション	○みなさんは、今までに家庭や学校生活の中で1人ではできないことがあった時、どのようにしましたか。また、どんなことを頼んだことがありますか。 ●ワークシートを見てください。近くで遊んでいる友達にブランターを裏庭の花壇まで一緒に運んでもらいたいと思っている場面です。ワークシートの吹き出しに、自分だったらどのように頼むか書きこみ、発表しましょう。 ●いろいろな頼み方がありましたね。今日は自分が手伝ってほしいことを相手に気持ちよく引き受けてもらうためには、どのように頼めばいいのか考えていきましょう。	・だれかに頼んで、手伝ってもらった。 ・助けてもらった。 ・教えてもらった。 ・跳び箱を運んでもらった。 ・作り方を教えてもらった。 ・おい、一緒に運んで。 ・重くて、1人で無理なんだよ。 ・手伝って。 ・お願い、運んでもらえるとうれしんだけど。	・絵の吹き出しに自分なりの頼み方を書かせる。 ・生活の中で手伝ってもらったり、助けてもらった経験から「どのように頼んだら、相手が気持ちよく引き受けてくれるのだろう。」という問題意識を持たせる。	10
モデリング	●それでは先生が、頼み方を実際にやってみます。だれか頼まれる役をやってくれませんか。 ・場面1の2つのパターンを演じる。 ●では、1つ目の頼み方で先生が頼んでみます。「おい、ブランターを運ぶの手伝えよ。」 ○△△さん、頼まれてどんな気持ちになりましたか。みなさんは見ていてどんな感じがしましたか。 ●次に2つ目の頼み方をしてみます。「Bさん、遊んでいるところを悪いのだけれどちょっと今いいかな。実はこのブランターを裏の花壇まで運びたいんだ。でも重くて1人では運べないので、一緒に運んでくれないかな。運んでくれたらとっても助かるのだけれど。」 ○△△さん、頼まれてどんな気持ちになりましたか。みなさんは見ていてどんな感じがしましたか。 ●いろいろと考えてくれましたね。相手に気持ちよく引き受けてもらうために、先生は次の4つのことに気を付けました。 (1)「自分から声をかける。」 (2)「頼み事をしなければならぬ理由を言う。」 (3)「何を頼みたいのかをわかりやすく言う。」 (4)「頼み事をきいてくれると、自分がどんな気持ちになるのかを伝える。」	・言い方がきつくて、手伝う気になれない。 ・命令されているようでいやです。 ・頼まれているのに、怒られているようだ。 ・ぼくだったら断る。 ・頼んでいる人が本当に困っているなと感じた。 ・ていねいな言い方なので、今度は手伝ってもいいなと思った。 ・やさしく頼まれたから、手伝ってあげようと思った。 ・気持ちよく引き受けてもらうための4つのポイントを知る。	・頼む役の2つのパターンを演じるときに、表情や態度にも違いが出るように工夫する。 ・頼まれる立場では、どのように感じたのか、素直な気持ちを表現させる。 ・児童たちの意見を板書し、整理していく。 ・(1)(2)(3)(4)のポイントをカードにして黒板に提示する。	10
リハーサル	●それでは実際にいろいろな場面での頼み方を考え、試してみましょう。「やさしい頼み方ワークシート」を配ります。 ●頼む内容は、次のうちから選んでも、自分で考えてもいいです。4つの内容を自分なりに考えて記入しましょう。 ●書けましたか。まだの人は友達と相談してもいいです。それでは今の台本をもとに友達に頼む練習をしてみましょう。4人グループになります。1人がもう1人に頼みます。今日は練習なので、頼まれた人は、「わかった。いいですよ。」と言ってあげましょう。後の2人は頼む様子を見て「よかったこと、こうすればもっとよくなること」をアドバイスをしてあげてください。後で代表を出して全員の前でやってもらいます。この練習では全員がすべての役をやるように交代してください。それでは始めましょう。 ●各班ごとに代表者を決めて、頼み方を全員の前でやってもらいます。見ているみんなには、上手だったところを発表してもらいます。 ○どんなところがよかったですか。 ●「やさしい頼み方のコツ」としてみなさんの意見をまとめると、他にも次のことが大切であるとわかりました。①相手に体を向け、相手を見る。②聞こえる声ではっきり言う。③笑顔でやさしく言う。	・(1)(2)(3)(4)の内容をもとに自分のワークシートの台本を書く。 ・自分で場面を決め、自分の言葉で台本を書き、言い方を工夫する。 ・グループで実際にトレーニングを行う。 ・やさしく言っている。 ・相手の方をしっかりと見ていた。 ・目を見てお願いしている。 ・やさしそうな笑顔で頼んでいた。 ・声の感じがよかった。 ・自分のお願いを、きちんと聞こえる声で言っている。	・時間を区切り、頼む人、頼まれる人の両方を体験させる。 ・頼み方は、引っ込み思案でもいいけないし、強すぎてもいけない。相手に合わせた言い方があることに気付かせる。 ・教師も上手なところをたくさん見つけて誉め児童がスキルを獲得できるようにする。 工夫のポイント ワークシートを参考に学級の実態に即した場面を想定して活用していくことも考えられる。 ・「やさしい頼み方」には、表情や態度など①②③も大切であることに気付かせる。	20

フ イ ー ド バ ッ ク	○「やさしい頼み方」をやってみてどんな感じがしましたか。 ●人は、だれかに助けられたり、だれかを助けたりしながら生きています。クラスの中で気楽に頼んだり、頼まれたりできる雰囲気ができあがると、とても気持ちのいいクラスになりますね。（時間に余裕がある場合：今日は相手が頼み事をきいてくれましたが、相手に断られた場合、どうすればよいかワークシートを見て確認しておきましょう。） ●これからも、今日の学習を生かして、相手の気持ちを大事にした「やさしい頼み方」をみんなができるようにしていきましょう。	・お願いを聞き入れてもらえるとうごくありがたいと思っ た。 ・手伝ってもらった後に、お礼の気持ちを忘れずに伝えることが大切だと思った。 ・次に自分が頼まれたときは、何でも手伝ってあげようと思 った。	・自分が頼んだことを相手に聞き入れてもらうことのありがたさがわかるようにする。 ・相手にお礼の気持ちを伝えることが大切であることに気付かせる。（ワークシートを見て相手に断られる場合もあることを確認する。）	5
---------------------------------	---	--	--	---

5 その他

相手が頼み事をきいてくれるかどうかは、普段からの相手との親しさの度合いによる場合がある。願いをきいてもらった相手から、次に自分が頼まれる立場になったときは、できるだけきいてあげようとすることが大切である。このことが、今までよりも相手との関係を深めていくことにつながり、人はだれかに助けられたり、だれかを助けたりしながら生きていることに気付かせたい。

板書例

「自分から声をかける。」「たのみごとをしなければならない理由を言う。」「何をたのみたいのかをわかりやすく言う。」「たのみごとをきいてくれると自分がどんな気持ちになるのかを伝える。」

【ソーシャル・スキル・トレーニング9 やさしい頼み方ワークシート】

初級

■どのようにたのんだらいいでしょう1

場面

休み時間に、プランターに土を入れて裏庭の花だんまで運ばなければなりません。土を入れてみるととても重くなったため、近くで遊んでいる友だちに運んでくれるようたのむ場面です。

役割

子どもA：友だちにプランターをいっしょに運ぶことをたのむ役

子どもB：遊んでいる時、プランターをいっしょに運ぶことをたのまれる役



■どのようにたのんだらいいでしょう2

- ・自分^{じぶん}がたのむときにやってみようと思う場面^{ばめん}を選^{えら}んで番号^{ばんごう}に○をつけましょう。（5番の自分で考えた場面でもよいです。）次に選んだ場面のたのみ方を（1）（2）（3）（4）に書きましょう。

- 1 図工^{ずこう}の時間^{じかん}に葉っぱ^はをぬっていたところ、とちゅうで緑^{みどりいろ}色の絵^えの具^ぐがたりなくなってしまう。もう少しで絵^えが完成^{かんせい}するので、緑^{みどりいろ}色の絵^えの具^ぐをかしてほしい。
- 2 書き初め^{かぞ}の時間^{じかん}に、自分^{じぶん}の書く場所^{ばしょ}がない。友だちに少しだけ動いてもらえると書く場所ができる。道具^{どうぐ}を広^{ひろ}げている友だちにもう少し右に動いて場所をあけてもらいたい。
- 3 インターネット^{しん}で調べる時間^{じかん}に、印刷^{いんさつ}がうまくできない。自分^{じぶん}でいろいろとやってみたがどうしてもわからない。どうすれば印刷^{いんさつ}ができるのか教^{おし}えてほしい。
- 4 授業^{じゅぎょう}で使^{つか}った道具^{かう}を、係^かりの仕事^{しごと}で4階^{かい}の準備室^{じゅんびしつ}まで持^もって行って、かたづけなければならぬ。いっしょに道具^{はこ}を運^{はこ}んでももらいたい。
- 5 自分で考えたやってみたいたのみ方の場面

- (1) 自分から声をかける。

- (2) たのみごとをしなければならない理由^{りゆう}を言^いう。

- (3) 何をたのみたいのかをわかりやすく言^いう。

- (4) たのみごとをきいてくれると自分がどんな気持ち^{きもち}になるのかを伝^{つた}える。

相手：「わかった。いいよ」

場面 1

1 場面

休み時間に、プランターに土を入れて裏庭の花だんまで運ばなければならない。土を入れてみるととても重くなったため、近くで遊んでいる友だちに運ぶことを手伝ってほしい。

2 役割設定

- | | |
|-------|--------------------------------|
| ・ 児童A | 友だちにプランターをいっしょに運ぶことをたのむ児童 |
| ・ 児童B | 遊んでいる時、プランターをいっしょに運ぶことをたのまれる児童 |

3 役割演技の流れ

《パターン1》

自分のことだけしか考えずに一方的に攻めるように言うたのみ方。

児童A 「おい、プランターを運ぶの手伝えよ。」

児童B 「えっ、・・・」

児童A 「重くて、一人じゃ運べないんだよ。手伝えよ。」

児童B 「うん、でも・・・」

児童A 「休み時間がおわっちゃうだろ。早くしろよ。ぼくだって遊びたいよ。手伝えよ。」

《パターン2》

相手の気持ちを大事にしながら、やさしく言うたのみ方

児童A 「Bさん、遊んでいるところを悪いのだけれどちょっと今いいかな。実はこのプランターを裏の花だんまで運びたいんだ。でも重くて一人では運べないので一緒に運んでくれないかな。運んでくれたらとっても助かるのだけれど。」

児童B 「わかったわ。いいわよ。」

■やさしいたのみ方のコツ

①

②

③

- ・ 友だちとのよい関係をつくる。

自分のたのみをきいてもらったら、相手にていねいにお礼をいしましょう。また、このことは覚えておきましょう。次に同じ相手から、自分がたのまれることになった場合は、できるはんいで相手のたのみごとをきいてあげようとするのが大切です。

■たのんだ相手にことわられたとき

相手がたのみごとをきいてくれる場面を考えましたが、いつもそのとおりになるとはかぎりません。たまたまタイミングが悪く相手にたのんだことをことわられる場合もあります。そのときは、どうすればよいか考えましょう。

- | |
|--|
| (1) もう一度たのんでみる。
(2) だめな場合は、どうしてだめなのかという理由を聞く。
(3) 理由によっては、たのみ方を変えることで相手にきいてもらえそうならば、もう一度たのんでみる。
(4) それでもだめな場合、たとえ理由がはっきりしない場合でもあきらめる。
(5) 他にもたのめそうな人がいた場合は、他の人をお願いしてみる。
(6) 急ぎでない場合は時間をおいて、あとでたのんでみる。 |
|--|

1 プログラム名 「やさしい頼み方」

2 指導のねらい

誰でも他の人に助けを求めることはあるが、その頼み方次第で要求が受け入れられることもある。上手な頼み方をすれば、その後の相手との関係を深めていくこともできるようになる。相手に何かを頼むときには、相手の都合やタイミングに配慮するとともに自分の要求を要領よくまとめ、丁寧に対応していくことが必要であることに気付かせ、やさしく人に頼む方法をスキルとして身に付けさせたい。

3 獲得目標とするスキル

- ①相手の都合を考えながら、自分の思いを伝える話し方で頼み事をする。
- ②頼む理由や具体的な要求を的確に相手に伝える力を身に付ける。

4 展開

場面	教師の発問(○)・指示(●)	生徒の反応・行動	留意点	時間
インストラクション	○みなさんは、家庭や学校生活の中で自分一人ではできないことがあった場合は、どうしていますか？ ○そうですね、自分一人ではできないことがあっても誰かの助けを借りて、一緒にやっていく場合も多いと思います。でも頼まれる立場で考えるとうどうでしょう。どんな頼み方をされると気持ちよく協力できるでしょうか？ ●いろいろ考えてくれましたね。今日は「やさしい頼み方」についてみんなで考えてみましょう。	・親や友だちに手伝ってもらう。 ・本当に困っている様子で頼まれると引き受ける。 ・丁寧をお願いされると気持ちよく手伝える。	・実際の生活体験の中から感じたことを発表させる。 ・どんな頼み方をしたらいいのかという問題意識をもたせる。	5
モデリング	●これから、先生が3つの頼み方を実際にやってみます。誰か頼まれる役をやってください。 ○場面1の3つのパターンを演じる。 ○相手役を演じて、どんな感じがしましたか？ ○みなさんは、3つのパターン見ていて何を感じましたか？ ●3つ目のパターンでやさしい頼み方をするために先生は次の4点に気を付けました。 ①相手の都合を確認する「声かけ」 ②どうしても「頼みたい理由」を伝える。 ③何を頼みたいのか、具体的に自分の「お願いしたいこと」を的確に伝える。 ④自分のお願いが叶ったときの「自分の気持ち」を伝える。 ○実は言葉以外の面、表情や態度でも気を付けていたのですが、気付いたことはありますか？ ●そうですね。表情や態度も相手に思いを伝える1つの手段になります。	・デモンストレーションを見る。 ・3つ目のパターンは自分も気持ちよく貸すことができた。 ・偉そうに言われると貸したくないと感じた。 ・はっきり言わないと何をしたいのかかわからない	・生徒役をあらかじめ決めておく。 ・生徒の意見を聞きながら、黒板に位置付けて整理する。 ・①～④のルールをカードにして提示し、優しい頼み方にパターンがあることに気付かせる。	10
リハーサル	●それでは、実際にワークシートの場面2をやってみましょう。まず、どんな頼み方をすればよいのか各自で考えて記入してみましょう。 ●それでは、3人組になってください。「頼む人」「頼まれる人」「観察する人」を決めてください。 ●役割が決まったようですね。黒板を見て、どのような「頼み方」がよかったのかをもう一度確認しましょう。みなさんは、私が演じたパターン3と同じように「やさしい頼み方」で頼んでみてください。 ●どこがよかったのかを3人で振り返りましょう。また、「こういう点があるともっとよい」ということがあれば、それも伝えてください。 〈3人がそれぞれ異なった役割を実施できるように3回繰り返して行う〉 ●今度は、ワークシートの演習を考えてみましょう。どのように頼みますか？各自で記入してみてください。 ●それでは、何人かにやってもらいましょう。 ○みなさん、どんなところがよかったですか？	・ワークシートに自分の考えを記入する。 ・3人組になる。 ・やさしい頼み方を確認し、グループで実際にトレーニングを行う。 ・振り返りを行い、スキルが獲得できたかどうかをグループ内で確認する。 ・演習にある場面を想定してワークシートに記入する。 ・代表が演習で考えた言葉かけを行う。 ・感想を発表する。	・グループづくりを配慮しながら行う。人数が割り切れない場合は4人組で対応する。(観察者2名) ・グループの様子を確認しながら、必要に応じてアドバイスを与え、スキルの獲得を支援する。	25
フィードバック	○みなさん、人をお願いをしてみてもどんな感じがしましたか？ ●今日はみなさん気持ちよく頼み事を聞いてくれましたが断られる場合もあります。その時は、どうしたらよいかをワークシートにまとめてあります。確認してみましょう。 ●みなさん、これから「やさしい頼み方」を身に付けて、みんなで協力していく、よいクラスにしていきたいと思います。	・ワークシートを確認する。	・数人の感想をきく。 ・ワークシートを説明し必ずしも頼み事が受け入れられない場合があることに気付かせる。	10

5 その他

社会生活では、お互いに助け合いながら人間関係をつくっている。相手の立場を尊重しながら自分の要求を主張する頼み方ができると、自分も助かると同時に相手との人間関係もより深まることをこのプログラムを通じて気付かせたい。

板書例

「都合を聞く声かけ」「頼み事の理由」「具体的な要求」「要求が叶った時の気持ち（結果）」

場面 1

1 場面

次の授業の社会（歴史）の用意をしようとしていたところ、間違えて地理の教科書を持ってきたことに気付いた。あわてて隣のクラスの友だちに歴史の教科書を貸してくれるように頼みに行く場面。

2 役割設定

- ・生徒A 歴史の教科書を隣のクラスの友だちにあわてて借りに行く生徒
- ・生徒B 歴史の教科書を生徒Aから貸してくれるように頼まれた生徒

3 役割演技の流れ

- ・生徒Aは下記の3つのパターンで生徒Bに頼む。

《パターン1》

「攻撃的な頼み方」：自分のことだけを考え、相手を無視して自分を押し通す頼み方

生徒A 「おい、歴史の教科書貸してくれよ（少し横柄な態度で）。」

生徒B 「えっ・・・？」

生徒A 「歴史の本だよ、時間がないんだよ。早く貸してくれよ。」

- ・生徒Aは、この後も貸してくれということを一方的に、攻撃的に言い続ける。

- ・生徒Bは、生徒Aの言葉に対して、感じるままに対応する。

- ・この後は、続けられる限り会話を続ける。

《パターン2》

「非主張的な頼み方」：いつも自分を抑えて相手を優先する頼み方

生徒A 「B君、社会の教科書のことなんだけど・・・」

生徒B 「社会の教科書？教科書がどうしたんだよ。」

生徒A 「実は、今日は歴史の授業なんだ。」

生徒B 「へえ、そうなんだ。それで？どうしたの？」

生徒A 「うん・・・」

- ・生徒Aは、この後も貸して欲しいということが率直に言えないまま言葉を続けていく。

- ・生徒BはAの言葉に対して、感じるままに対応していく。

- ・この後は続けられる限り会話を続ける。

《パターン3》

「やさしい頼み方」：自分を大切にするとともに、相手の立場も配慮した上手な頼み方

生徒A 「B君、ちょっと今、いいかな？」

実は歴史の教科書を忘れてしまったんだけど、

次の時間、悪いけど貸してくれる。

貸してくれると本当に助かるんだ、頼むよ。」

生徒B 「わかった。いいよ。」

- ・この後は続けられる限り会話を続ける。

- ・【声かけ】【理由】【欲求】【結果】の4つを満たしていればアドリブで演じてよい。

◆頼み方の3つのタイプ・・・

- ①攻撃的な頼み方・・・相手のことは考えずに、自分の都合だけで一方的な言い方をする。
- ②非主張的な頼み方・・・はっきり頼めず、相手に察してもらう言い方をする。
- ③やさしい頼み方・・・頼みたいことを具体的に述べるが、相手のことも考えた言い方をする。

◆やさしい頼み方をするときには・・・

- ①相手に体を向け、相手を見る ②聞こえる声ではっきり言う ③笑顔で優しく言う

教科書を忘れてしまったので見せてもらいたいときの頼み方の例

	内容	言語表現
声かけ	何と言って声をかけるか	〇〇くん！今、大丈夫かな
理 由	頼み事をしなければならない理由	教科書を忘れてしまったんだけど
欲 求	何を頼みたいのかという具体的な自分の欲求	貸してくれるかな？
結 果	その欲求が満たされた場合の結果（気持ち）	貸してくれると助かるんだ

場面 2

1 場面

生徒Aは文化祭の準備をしている。2階の教室にある段ボール箱を4階の理科室まで運びたい。一人で持ち上げようとしたが、かなり重いため、近くにいる友だちに手伝って欲しい。

2 役割設定

- | | |
|------|--------------------|
| ・生徒A | 一緒に荷物を運ぶことをお願いする生徒 |
| ・生徒B | 荷物を運ぶことを依頼される生徒 |

3 優しい頼み方

声かけ	何と言って声をかけるか
理 由	頼み事をしなければならない理由
欲 求	何を頼みたいのかという具体的な自分の欲求
結 果	その欲求が満たされた場合の結果（気持ち）

〈演習〉

- 今日は、自分が部室のカギ締めを行う日になっているが、担任の先生から頼まれた仕事をやっていてどうしても手が離せない。同じ部活動の友だちにカギ締めを頼みたいが、何と言って頼めばよいのだろうか？

声かけ	
理 由	
欲 求	
結 果	

◆頼んだ相手に断られた時は・・・

場合によっては、様々な理由（相手の都合）から頼み事を断られる場合もあります。その時は次のような方法が考えられます。

- ① もう一度頼んでみる
- ② それでもだめな場合は、どうしてだめなのかという理由を尋ねる
- ③ 理由によって、大丈夫そうならばもう一度交渉してみる
- ④ 理由が納得できない場合でもあきらめる。その場合は、自分の気持ち「そうか、私はちょっと残念」「無理を言ってごめんね」などの言葉を表現してもよい
- ⑤ 可能な場合は、他の人をお願いしてみる。

* 「やさしい頼み方」がうまくできたかどうかの確認も必要、特にタイミングが悪くなかったかどうかを確認する。

1 プログラム名 「やさしい頼み方」

2 指導のねらい

何かを頼む時、その言い方によって気持ちよく引き受けられる場合と、「どうして私が？」という気持ちになることがある。このスキルでは、どうしてその違いが生じるのかに気付き、相手が「気持ちよく引き受けてくれる」ためには、どのように頼むのがいいのかということをも身に付けられるようになることを目指す。

3 獲得目標とするスキル

- ①相手も自分も大切にして「依頼する」方法を身に付ける。
- ②具体的に依頼し、断られた時の代案も考えられるようにする。

4 展開

場面	教師の発問 (○)・指示 (●)	生徒の反応・行動	留意点	時間
インストラクション	●今日は「頼み方」について学んでいきます。 ●誰かにものを頼むとき、気持ちよく引き受けてもらえる場合、嫌々ながら引き受けてもらう場合、あるいは断られてしまう場合など、いろいろあります。今日は、「気持ちよく引き受けてもらう場合」と「断られてしまった場合の対処」について学びましょう。 ○では、どういう時に「気持ちよく」引き受けてもらえるのでしょうか？ ●そうですね。そんなふうに頼まれると、なかなか断れないですね。	・頼んでいる人が「困っている」ということがわかった時。 ・「お願い」と優しく頼んできた時。 ・普段から何でも一生懸命やっている人が頼んできた時。	工夫のポイント 学校生活の具体的な場面を想定させ、なぜこのスキルが大切なのかを考えさせることも効果的である。 ・実際の生活体験の中から感じたことを発表させる。	5
モデリング	●それでは、実際に「頼み方」の例をやってみましょう。 ・「好ましくない例」「よい例」の実施 ・「よい例」のどういうところがよかったか振り返る ●生徒の意見を板書し、整理していく。	・代表生徒は前に出て演じる。 ・他の生徒は、代表生徒の演技を見て、「よいところ」を確認する。	・「好ましくない例」と「よい例」の両方を演じさせる。 ・「好ましくない例」には深入りしない。	10
リハーサル	●それでは、実際にやってみます。近くの人と3人でグループを作ってください。グループができたら、「生徒A」「生徒B」「観察者」を決めて下さい。 ●役割が決まったら、黒板を見て下さい。 「頼む場面」でよかったところは、○○でしたね。各グループで、そのよかったところを実施できるように、練習して下さい。 ●終わったら、どこがよかったか振り返って下さい。もしも仮に「こうしたらもっといい」というところがあったら、それも伝えて下さい。 ●それでは、もう一度やってみましょう。 <同じように3回繰り返し、全員がそれぞれの役割を経験する>	・グループを作る。 ・グループごとにトレーニングを行う。 ・「よいところ」に注意しながら、再度行う。	・3人で割り切れない場合は、4人グループを作って「観察者」を2名にする。 ・もう一人のスタッフ（教師）は、各グループの活動を観察し、必要に応じて指示する。 ・きちんと振り返りを行い、よりよい「やさしい頼み方」ができるようにさせる。	25
フィードバック	○今日は、「やさしい頼み方」について練習しました。 ○「気持ちよく引き受けてもらう」ためには、具体的に状況を説明して、自分がしてほしいことを具体的に提案することが必要でした。それでも、必ずしも相手が引き受けてくれるとは限りません。相手には相手の都合があるのですから、「断られる」場合もあるのです。断られても、あなた自身が否定されているわけではありませんので、次の機会に期待しましょう。	・「断られる」場合もあることを確認し、その時の対処の仕方に気付く。	*スキルの獲得が不十分な場合は、再度リハーサルを行い、スキル獲得を支援する。	10

板書例

やさしい頼み方

- 相手に近づく。 ○困っていること表しながら話す。
- 困っている状況を具体的に話す。
- 「もしよかったら」「お願いできませんか」などの言葉を付け加える。
- 断られたら「別の方法」「別の機会」を提案する。

■実施する内容

1 場面

- ・放課後、自分の所属する委員会が開催されることになっているが、所用があつて参加できない。代わりに委員会に出席してくれることを依頼する場面。

2 役割設定

生徒A

委員会に出席できないので、代わりに出席してくれることを依頼する生徒

生徒B

相手から依頼を受けて、「出席してもよい」という気持ちになったところで、「いいよ」と返事をする生徒

■やさしい頼み方の特徴

例にならって、「やさしい頼み方」の特徴を記入しよう。

- (例) ○ 相手に近づいていく。
-
-
-
-
-
-
-

■やさしい頼み方のシナリオ（例）

生徒A：「ねえB君、ちょっといいかなあ」

生徒B：「うん、いいよ。何だい？」

生徒A：「実は頼みがあるんだけど、今日の放課後、何か用事ある？」

生徒B：「別にないけど、何？」

生徒A：「今日の放課後、〇〇委員会があるだろう。実は、俺、用事があつて出られないんだ。だから、B君、代わりに出席してくれないかなあ」

生徒B：「えっ？ 嫌だよ。何だよ、その用事って？」

生徒A：「実は、昨日の夜、母さんが入院しちゃって……。学校終わったら、必要なものを持って、すぐに病院に行かなきゃならないんだよ」

生徒B：「なんだ、そんなことがあったのか？それなら、おあいご用さ。委員会の方は、代わりに出席するから、急いで病院に行ってやれよ」

生徒A：「サンキュー。この埋め合わせは、いつかするから」